



鳴門の用水路で

淡水魚生息調査

県と大津西小児童ら

田んぼの生き物を調べている県農村振興課と、地域の環境について学んでいる鳴門市大津西小学校の6年生（28人）が24日、校区の用水路で淡水魚の生息調査をした。

児童らは「追い込むぞ」と水路に入り魚を追った。写真。学校周辺には約30種類いるが、取れた魚はメダカやモツゴ、フナなど6種類。県内ではここにしかないとされ、環境省のレッドデータブックで絶滅危惧IB類のカワバタモロコは姿を見せなかったが、同類のイチモンジタナゴが取れ、徳島大大学院ソシオテクノサイエンス研究部の田代優秋研究員が説明した。

県は、同市大津町付近の用水路で04年にカワバタモロコの生息を58年ぶりに確認したため、環境に配慮した改良を進め、定期的に調べている。